

2009年新年賀詞交歓会／挨拶

JABM 会長 芳賀 美次

会員の皆様、改めて 明けましておめでとうございます。
今年のお正月は、天候に恵まれ、大変穏やかでありましたが、経済情勢は、嵐の様
がありました。急激な嵐の到来で、いろいろなところに弱点や問題点が見え、多くの方
々が、それを真剣に考えた、お正月であったのではないかと思います。

まず本日は、賀詞交歓会にご参加いただき、ありがとうございました。
日頃より会員の皆様のご支援とご協力をいただいておりますが、お陰様で協会運営も
スムーズに行われております。心より感謝申し上げます。

さらに、先程の「新春記念講演会」でご講演していただいた講師の皆様おかれまし
たは、「近くて遠い」と言われた、ロシアと中国の現場で体験された、大変貴重で有益な
お話、本当に有り難うございました。これから中国やロシアに進出しようと考えている
方々には、大いに参考になったと思います。

さて、年頭にあたりまして、一言、協会の活動状況と当協会が集計致しました、20
08年のボンド磁石の生産推定をご報告致したいと思っております。

まず、活動状況ですが、2008年も会員の皆様にお役に立つ協会を目指して、
5月と9月には技術例会を行い、12月には国際シンポジウムを開催しました。

技術例会は、5月に「新しい磁性産業を切り開く先端技術」を特集に組み、9月に
は、「軟質磁性材料の進歩と評価技術」を行いました。

12月の国際シンポジウムは、中国から講師2名をお招きし、「磁性材料を巡る最新
の技術動向と環境対策」を行いました。現在、世界のボンド磁石の研究開発は、欧米
はそれ程活発ではなくなり、ロシアやインドはまだ大分時間がかかりそうでありま
すし、結局、日本、中国など東アジアが中心で行われているのが現状であります。

企画委員会が担当する、昨年新春記念講演会は、「市場変化を捉えた新製品開発を
リーダーは、どの様に考え行動したか」を3名の講師にお願いし、行いました。

以上の2008年の講演会に参加された方々は、461名でありました。

次に、12月4日の「世界ボンド磁石出荷統計討論会」は、企画委員会の主催にな
りますが、国内と中国からの参加者で行いました。討論会は、企画委員の皆さんの周
到な準備で望みましたが、活発な討論になり、内容の充実したものになりました。

また、一昨年から始めた 勉強会の「寺子屋BM塾」は、浜野塾長によって企画さ
れ、4名の講師で5回行われましたが、参加者は延べ270名で大盛況でありました。

最後に年2回発行している「BM News」は、多田機関誌編集委員長の他、2
名の少ない委員ではありますが、皆様のご努力下、益々、内容が多彩で立派な機関
誌になってきました。

編集に当たり、昭和電工の渡辺直敏様には、昨年もレイアウトから会議室のご提供
まで大変お世話になりました。ありがとうございました。

以上が協会の活動状況の概略であります。

さて続いて、2008年のボンド磁石の生産推定を 簡単にご報告致します。
この集計は、企画委員会が行い、荒川企画委員長が中心になってまとめていただ
いたものです。まだ最終結果ではありませんが、概略次のようになります。なお協会とし
ての公式発表は、3月末頃になる予定です。

その集計結果であります。2008年の日本国内に於ける生産は、重量では12,
900トンで前年比90%、金額では、247億円で前年比91%の見込であります。

この値に中国やタイなどで生産されている、日系企業の海外生産金額388億円（前年比96%）を含めると、合計635億円になり、前年比94%になると推定されます。

ボンド磁石は、他の産業と同様、昨年9月までは、順調でありましたが、10月から12月までの3ヶ月間が35～40%ダウンしたため、年間通して、前年比90%前後にダウンしてしまいました。

ボンド磁石の分類では、フレキシブルボンド磁石が国内で4200t（前年比106%）、金額で32億円（前年比105%）で、久しぶりに大きく伸びました。特に回転体用磁石が大きく伸び、音響、OA、吸着雑貨の落ち込みをカバーしてくれました。

リジッドボンド磁石は、8100t（83%）、金額で119億円（82%）でありました。2007年に大きく伸びたプリンター等OA分野が大きく落ち込んだ結果であります。

希土類ボンド磁石は、数量で600t（100%）、金額で96億円（100%）で横ばいという内容でありました。

以上で当協会がまとめた、ボンド磁石の生産推定値の報告を終わります。

最後になりますが、今回の金融危機で、世界経済がいろいろな国と連動し、強い相互依存で成り立っていることを改めて実感しました。また輸出した製品が、最終的に一国に集中する貿易は、リスクが高いことにも気が付いたと思います。この厳しい経済情勢がしばらく続くとも言われておりますが、このピンチの後のチャンスは何かを、2009年は、皆がそれぞれ本当に真剣に探し、考える年になると思います。

ここでロボットの例を一つご紹介したいと思います。皆さんはご存知と思いますが、ロボット大賞2008（経済産業大臣賞）は、（株）タカトミーの二足歩行人型ロボットが受賞しました。2008年に活躍した、将来の市場創出への貢献度・期待度が高いロボットとして、昨年12月18日にこの大賞が決定しました。

また「世界最小の量産されている人型ロボット」として、2008年度版のギネス世界記録に認定されたそうです。このロボットには、サーボモータが17個搭載され、国内外に47,000台販売されたそうです。これから計算しますと、モータの数が約80万個売れたことになり、新しい市場が創出されたことになります。

これから連想して、何か有望なテーマがないか考えて見た結果、小学校高学年から中学校の年代を対象に、ボンド磁石や磁気センサーを使ったいろいろな小型モータを組み立てセットにし、何かに搭載して、例えば太陽電池で動くおもしろい玩具を開発すると売れるのではないかと、乏しい想像力で考えました。これによって子供達の理科離れを食い止め、もの作りに関心をもってもらい、沢山売れると、ボンド磁石メーカーが儲かるという、仕組みであります。

厳しい経済環境であるからと言って、身体の動きを止め、頭も休めてしまうと大変危険です。

どうか、ご自分の頭をフル回転し、新製品開発や新市場の開拓に積極果敢に取り組んで欲しいと思います。

当協会もお役に立つように、努力してまいりますので、2009年は勝負、大いに頑張ってください。

これで終わります。ご静聴有り難うございました。